

旧制山口高等学校始動

大正8(1919)年4月、「高等学校令」により、これまで第1から第8までの8校だった官立高等学校は、新たに新潟、松本、山口、松山の4校が加わり、12校となった。

同月、旧山高の初代校長、新保寅次の人事が決定し、文部省内に置かれた創設事務所にて学則等の制定が進められた。

6月、創設事務所が文部省から山口中学校内の仮校舎に移され、新保校長を始め、教授陣が着任し、開校に向けて準備が着々と進む中、7月には入学試験が行われた。

入学試験は身体検査と学科試験があり、学科は7科目の試験が4日間にわたって行われ、669名の受験者から定員160名の入学者が選ばれた。学校敷地は山口県吉敷郡山口町上宇野令糸米(敷地総数約19,000坪)に確保してあったが、入学初年度は校舎も寮も建設途中であったため、仮校舎、代用学生寮で間に合わせた。校舎は、県立山口中学校(現在の山口県立山口図書館)の補習科用校舎を使用し、町内に4か所の代用学生寮が用意された。

こうして、誘致運動に始まった多くの人々の熱意と努力が実り、大正8年9月12日、山口中学校の講堂で第1回生の入学宣誓式が行われ、いよいよ旧山高の新たな歴史が始まったのである。



山口中学校校舎

入学初年度の施設

■校舎

山口県立山口中学校の補習科用校舎を借用

■校長・事務職員の執務室

山口中学校の講堂を借用

■運動場

山口中学校・山口高等商業学校から借用



山口師範学校女子部寄宿舍

■代用学生寮

- ・下堅小路寮(山口師範学校女子部寄宿舍跡)
- ・太刀売寮(家政小学校跡)
- ・茶臼山寮(元河内信朝氏住宅跡)
- ・荒高寮(山口団扇商会工場移転跡)

※荒高寮はその後、剣道部の寮「磨剣寮」として使用

カリキュラム

修業年限は3年で、「文科」と「理科」に分かれ、それぞれ「甲類」と「乙類」のクラスがあった。「甲」と「乙」では第1外国語の選択が異なり、前者は英語、後者はドイツ語であった。文科、理科ともに外国語教育に重点が置かれており、これは旧高等学校令による高等学校以来の伝統であった。



化学授業風景

各学科の毎週授業時間数（『山口大学三十年史』より）

文 科	1年	2年	3年	理 科	1年	2年	3年
修身	1	1	1	修身	1	1	1
体操	3	3	3	体操	3	3	3
国語・漢文	6	5	5	国語・漢文	4	2	
(甲)第1外国語(英)	9	8	8	(甲)第1外国語(英)	8	6	6
(甲)第2外国語(独)	4	4	4	(甲)第2外国語(独)	4	4	4
(乙)第1外国語(独)	11	10	10	(乙)第1外国語(独)	10	9	9
(乙)第2外国語(英)	3	3	3	(乙)第2外国語(英)	3	3	3
法制・経済		2	2	法制・経済	2		
数学	3			数学	4	4	4(2)
心理・論理		2	2	心理		2	
自然科学	2	3		物理		3	5
哲学概説			3	化学		3	5
歴史	3	5	4	植物・動物	2	2	(4)
地理	2			鉱物・地質	2		
				図画	2	2	(2)
計	33	33	32		32	32	32

理科の3年生は数学(2)・図画(2)もしくは植物・動物(4)かを選択

校章・校歌の制定

校章は、山口中学図画担当の佐治友八教諭が東京美術学校の生徒の作品を改良してデザインした。「堅実不屈」、「進取独立」、「久遠」を表すものとして考案された。柏の葉は「堅実」の意味を象徴し、兜の鍬型風にアレンジ



(上)校章 (右)校歌

一
健児の胸に燃ゆる火の
朱こそ映ゆれ朝ぼらけ
雲の響に眼醒めけむ
鳳翻山の末遠く
潮なす麓鉄城に
こもれる理想誰か知る

した「山」の字は「武士道精神」を表すとともに、「新月」にも似せてあり、新月が次第に満月に成ってゆくように、積極的な発展を期する意味を持たせてある。

校歌は、生徒から歌詞を募集したが、当選作が無かったため、国語科の山崎麓教授が応募作から参酌し作詞した。校長及び全教授の校閲を得て大正8(1919)年11月下旬に制定。第1回生の安藤省三、稲山絢太郎、白水半次郎、若林克己、木村作治郎の5名が全国の高等学校の歌集を参考にしつつ、山口中学講堂のオルガンを使って作曲した。